

商品政策

1. 商品政策の基本的意義と課題

1. 1. 改定の視点

- (1) パルシステムの「商品政策」は、グループの商品づくりの基本的な考え方を示し、食品や生活用品などの商品全般をつくる指針となるものです。商品は組合員のくらし課題解決の具体化であり、組合員の声によってつくられます。
- (2) 商品政策(基本政策)とこれを具体化して定められる諸政策、基準等は、商品開発と商品事業の進む方向を示すもので、その実現を目指してパルシステムの役職員、組合員、生産者ほか取引先がそれぞれの役割を果たしていきます。商品政策の意義が組合員に伝わり、利用が広がることが、私たちの目指す社会づくりにつながります。
- (3) パルシステムの商品政策は 1995 年に制定され、組合員の共感を得て、パルシステムのこだわりを持った商品の開発と事業・運動の発展に役立ってきました。しかし、この間、少子高齢化、社会的格差拡大、流通の多様化、情報化などが一層進み、社会状況は大きく変化しています。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故も起きています。
- (4) 社会と組合員のくらしの大きな変化と困難な状況に対して、組合員が求める商品・サービスの提供と事業対応が必要とされています。そのために商品委員会では商品政策プロジェクトを設置して商品政策改定の検討を行ないました。
- (5) 商品政策の改定にあたって、パルシステムの原点を再確認し、今の状況に対応していくためにも、原点を受け継いだパルシステムのこだわり(パルシステムらしさ)を大事にすること、それを組合員に伝えることが重要であることを確認しました。

1. 2. パルシステムの原点とは

- (1) パルシステムの会員生協の設立の経緯はさまざまですが、正直な商品づくり、食の安全・安心、環境への配慮、平和など、組合員の切実な願いがパルシステムのひとつの原点になっています。そして組合員の願いの実現のために必要な社会変革を目指してきました。
- (2) 安全・安心な食品を求めて始められた産直運動の中で、自然の恵みの中に命を持った作物や家畜が育まれ、多くの人々の労苦の結果、作り手だけに任せるのではない生産・消費活動として、食卓に届けられることを学びました。生産者と消費者が相互に理解して、共に支えあい、環境と日本の農林水産業を守る持続可能な環境保全・資源循環の社会づくりを推進することがパルシステムのもうひとつの原点になっています。
- (3) 産直の取り組みは、地域社会の活性化の取り組みや多様な組合員の生活を社会と共に支えて地域づくりの一端を担う取り組みなどにも発展しています。人と人が助け合い、地域や世代を超えて「共生の社会」を目指して、産直産地、メーカー、物流委託先等の取引先とともに、全国で取り組みが広がっています。

1. 3. 商品事業の目的と意義

- (1) パルシステムの商品活動は、食と農のつながりをもって、生産と消費を結び、共に生活者として持続可能な共生の社会をつくることを目的とします。
- (2) パルシステムの商品事業とは、原料の生産から加工、流通、消費までの一貫したフードシステム全体を商品づくりの基本におき、より美味しく安全で生命あふれる食べ物や生活用品の価値を創造します。
- (3) 生産者と組合員の対等な関係づくりは、生産だけでなく、利用してはじめてその商品の利用価値を創造

することになります。より多くの人の中での暮らしの中で活用されるよう関係者が共に事業と運動を推進します。

- (4) パルシステムは、商品を利用することで社会を変えていくという使命と商品の物語そのものが運動であるということをグループで共有し、商品、情報、サービスを統一的且つ総合的にお伝えし、共感を呼び、心に響く取り組みを重視していきます。紙媒体、インターネット、商品包材等媒体すべてに情報を盛り込みます。
- (5) 商品活動を推進するには、高い価値創造に向けて、基準で線引きするだけでなく、生産と消費が共に交流し理解を広げ、低いところから高い目標へと運動していくことを重視します。商品の品質などの価値創造は、お互いの協力によって成すことが出来ること、その作り上げる過程を運動とします。
- (6) PB商品の開発及びリニューアルの視点は、組合員の暮らし課題解決に貢献し、商品政策を具現化するものとします。開発・リニューアルを通して、明確な特性をもち、競争優位な適正価格と事業剰余への貢献をめざすものとします。

2. 商品政策の基本方針

パルシステムの商品に対するこだわりを表わすものとして、商品政策の基本方針を以下のように定めます。

パルシステムの商品事業は、組合員に情報を伝え、組合員の声と参加・参画で商品づくりを進めることが基本であり、その基に「産直」「安全・安心」「環境」「情報提供」を商品政策の柱とします。

2. 1. 商品政策は、組合員起点とします。

(1) 組合員の声と参加・参画によって商品づくりと運動、組合員への情報公開を進めます

- 組合員の声を活かし、組合員の参加・参画を追求します。組合員の声に誠実に応え、さまざまな形のコミュニケーションを通じて、意思疎通、相互理解を図り、商品や取り組みに組合員の声を反映します。会員生協と連合会が連携して組合員参加でPDCAサイクルにより商品を改善し、見える化を追求していきます。
- 多様なくらし、変化への対応を追求します。アレルギー、乳幼児、高齢者などへの配慮、すべての人が使いやすい商品づくりを進めます。組合員視点での品質、使い勝手、適正価格の商品を取引先と協力してつくります。
- 組合員に必要な情報、組合員の求める情報を迅速かつ正確に提供します。組合員視点で表示の充実を図ります。組合員の立場から社会的な発信を行いません。

2. 2. 組合員を起点に「産直」「安全・安心」「環境」「情報提供」を商品政策の柱として取り組みます。

(1) 「産直」：日本の農林水産業を守り、持続可能な共生の社会づくりを進めます。

- 産直と国産品利用で日本の農林水産業を守り、食料自給力向上を目指します。
- 生産者、製造者と消費者の連帯と相互理解を進め、共生社会を目指します。
- 地産地消を推進し、地域活性化、地域づくりに貢献します。
- 東日本大震災・原発事故の産直産地などでの復興と対策の支援に取り組みます。
- フェアトレードを進め、海外の取り組みを支援する民衆交易を目指します。

(2) 「安全・安心」：組合員の願いに応じて安全・安心の商品づくりを進めます。

- 遺伝子組み換え作物および食品に対する基本方針を維持し取り組みます。
- 放射能対策を進めます。
- 食品添加物などを減らし、化学調味料を使わず、素材や製法にこだわった、おいしい食品づくりを追求します。
- いのちの源である食を大切に、生きる力を高めるための食育に取り組みます。
- 食品照射など問題点を伝え、安全・安心の食品づくりを進めます。
- 生活用品や住宅関連事業等でも化学物質対策など安全・安心を追求します。

- 品質管理で商品事故を防止し、確かな品質の商品を供給します。
- コンプライアンス(法令順守)を徹底し、商品偽装等を防止します。
- 事故・問題が起きた場合は、組合員の立場に立って迅速・誠実に対応します。

(3) 「環境」：子どもたちによりよい環境を残すための運動に取り組みます。

- 農薬削減や資源循環を進める環境保全型農業に取り組みます。
- 石けんの普及など水環境を守る取り組みを進めます。
- 省資源、省エネルギー、廃棄物削減のため、3 R(削減、再利用、再生)を進めます。
- 有害物質対策に配慮した商品づくりを進めます。
- 生態系、生物多様性を守る取り組みを進めます。
- 脱原発のため自然エネルギーの利用を広げます。

(4) 「情報提供」：組合員への発信力を強化し共感型の参加を広げていきます。

- 商品に関する情報は、容器包装・カタログ・情報誌・インターネットなど全ての媒体でパルシステム表示基準に沿って作成します。
- 誠実でわかりやすい表記を心がけて、信頼できる情報提供を行ないます。
- 個々が求める商品情報をよりタイムリーに提供できるように進めます。
- カタログ、インターネット等、個人別に最適化された商品・情報・コミュニケーションの提供を追求します。
- 商品政策を基本にして、共感を得られるように表現していきます。

制定・改訂履歴

版数	制定・改訂日	提案	承認	内容
第1版	1995/06/		理事会	制定版
第2版	2001/06/29	若森	理事会	
第3版	2014/05/30	石田	理事会	

解説 「商品づくりの基本」と「7つの約束」

商品政策をベースに、組合員に分かりやすく伝えるために「商品づくりの基本」と「7つの約束」を公表しています。これは、政策文書ではなく、政策をわかりやすく伝えるために表現したものです。多くの企業では、基本政策を踏まえて広報や宣伝等で、わかりやすいキャッチコピーが採用されています。

- (1) 「商品づくりの基本」では、政策と言うよりも商品づくりをする際の「心構え」としての問いかけとなっています。
 - ① 自然や生き物の「本来の姿」を尊重しているか
 - ② 地域に根ざした食生産や暮らしに貢献しているか
 - ③ 「作り手」との関係に、甘えや惰性、妥協はないか
 - ④ 食べて「おいしい」、あって「よかった」を届けているか
 - ⑤ 商品の裏側をきちんと伝えようとしているか
- (2) 「7つの約束」では、商品政策のめざすところより組合員に丁寧に分かりやすく概括的に表現したものです。商品政策の考え方等をわかりやすく伝えることは、商品づくりの背景や価値を共有し、パルシステムの立場を明確にすることにつながります。
 - ① 作り手と「顔の見える関係」を築き、信頼から生み出された商品をお届けします
 - ② 食の基盤となる農を守るためにも国産を優先します
 - ③ 環境に配慮し、持続できる食生産のあり方を追及します
 - ④ 化学調味料不使用で豊かな味覚を育みます
 - ⑤ 遺伝子組み換えに「NO!」と言います
 - ⑥ 厳選した素材を使い、余分な添加物には頼りません
 - ⑦ 組合員の声を反映させた商品づくりを大切にします